付け加えることができる価値は何か？

～　親族が協力して、みんなで子育て　～

5

千葉　晃央

固有の文化を尊重した支援

2023 年 11 月 18 日（土）から 23 日（木）にブリスベンの児童福祉機関で学ぶスタディツアーに研究員の立場で参加しました。このツアーは日本財団の助成で「フォスタリングソーシャルワーク専門職講座」の一部として企画、開催されました。前回に引き続き、その報告を行います。

ブリスベンでの研修 2 日目に、ソーシャルワーク機関ＫＡＬＷＵＮさんを訪れ、学びました。こちらは支援対象を先住民の方々を中心として、活動されていました。先住民の方々の文化が維持できるよう、同じ（できるだけ近い）文化的背景を持つソーシャルワーカーが担当することが特色でした。

今回は、そこを訪れたときのメモを文字お越ししてみます。前回同様、英語を通訳していただき、それを千葉がメモをしたものから文章を作っています。そのため、内容の真偽を確認したものではありません。そのあたりをご理解の上でお読みください。

ＫＡＬＷＵＮへ

2 日目の午前中に訪問。奥の部屋に通していただき、お話を聞く。立地はゴールドコーストの近く。建物は郊外の大きな一軒家という様子。ワーカーの方が話してくださいました。はじめに、土地の所有者が先住民の人々であるという認識を全員で共有しました。「晴天のゴールドコーストへ、ようこ

そ」。当日は曇天で小雨…ユーモアも交えてのスタートです。「今皆さんはオーストラリアの先住民のなかでも、カラマリ族の土地にいます。ここは、カラマリ族が切り開き、暮らし、その伝統の流れがあって今につながっています。この土地の名物は、ブッシュ茶（山菜茶）です。日本で里親制度を広げようとする動きがあることを私たちも聞いています。その時に重要な点は、実親家庭とのつながり、里親家庭とのつながり、それらを踏まえて、子どもの成長をどう支えるか、そしてどう情報を扱っていくかというところです。そして、私たちがしていることを日本に当てはめるならアイヌ民族、琉球の方々の文化的背景を維持、伝承したソーシャルワークを行うということになるでしょう。こうした支援を行うことは、植民地化された史実の影響をなくし、本来の姿を取り戻す目的があります。」

家族の分離は、西洋文化

「児童福祉、児童保護に関するサービスの現状をお話しします。先住民の数はクィーンズランド州で、トレス諸島も含めて人口の約3%です。しかし、児童福祉、児童保護のサービスを利用している全体の約50%が先住民に関するルーツの背景を持っています。先住民の方々は何もかもを奪われた世代がありました。家族、そして子どもたちは制度によって、家族から引き離されました。本来先住民の方々が行っていた教育や養育の実践から無理やり切り離された歴史があるのです。我々のゴールは、本来持っていた先住民の養育のやり方を現行の福祉システム、社会制度に理解させることです。」

「上手くいっていないときに、家族を引き離すというのは西洋的なやり方だと思います。私たちは先住民の暮らしに基づいた文化的養育に関してアドバイスをします。その手段の１つとして、親族養育があります。親族システムを生かし、おばが養母になることもあります。私たちの活動は、先住民ではない人々に対して誤解を解消していくことから始まります。つまり、西洋と先住民の子どもの養育の違いを認識してもらうことから始まるのです。親族養育の一貫として、祖父母が育てる、叔父叔母が育てるということもあり、その暮らしを支援するのも目的です。」

「家族の中には、セーフパーソンがいます。危険ではない人です。その人を含めて、

家族に力を与えていくことになります。誰が子どもを見ていくか決めていこうとアプローチすることもあります。そこで、ワーカーが考えることは、子どもはどの人を良く知っているのか？どこに行くべきか？です。これは家族（子ども）が決めることです。ワーカーではありません。家族として過ごせないなら、どうやって家族に戻ることができるかについて取り組むことになります。つまり、家族とつながる、文化とつながる。それを養育者がサポートしている環境が重要となってくるのです。」

子どもから高齢者まで

「私たちのサービスは、妊娠時から高齢期までが対象です。ヘルスサービス、心の健康も含まれます。先住民の方々は寿命が短いというデータもあります。そのため、シニアサービスもあります。長老と呼ばれてきた方々が対象です。子ども向け、家族向けのサービスもあります。」

「先住民が保護されやすいのはなぜなのか。先住民の文化では子どもと一緒に寝る習慣があります。西洋では子らははやい時期から別々に寝ます。アボリジニ（東洋も同じですが）は一緒に寝るのが普通です。また、子どもが親族の家での暮らしを複数経験する文化もあります。５つぐらいの家族に行くのが普通です。子育てをシェアしているのです。また、世代を超えて、暴力、ドラッグ、アルコールの習慣を持つことが起こっています。そして人種差別が残っています。」

「時にはアボリジナルの人たちにとってはリスクのある状況ではなく普通なのに、西洋の文化から見て普通ではないので子どもや生活を取り上げられるということが起こるのです。つまり、ケアのスタンダードが違うのです。一方は西洋の基準。もう一方は先住民の持つ７０００年の習慣と文化。その違いです。親族養育のように成人にはコミュニティの一部である責任があります。男性、女性にそれぞれに責任があるというような西洋の価値観とは異なるのです。」

→お話の後は、フィールドワーク。先住民の方々が暮らしていた地域を歩きながら学びました。色付きの土がここにはあり、昔はそれを体に塗って客人を歓迎する儀式をしたと教えていただく。

親族で協力して子育て

「先住民の文化では、はやい時期に責任を教えています。年長のきょうだいが下の子に責任を持ちますし、祖父母がしつけに関しては責任を持っているという状況もありますし、叔父さんおばさんが教育者になる文化もあります。両親に関しては、安全と食事を提供する役割があります。こういった分業は、西洋の児童保護だと、ネグレクトになります。」

「先住民の暮らしには、13 歳の子が子どもを連れておばさんのところに行くことは普通にあるのですが、西洋文化ではこれもネグレクトとなります。先住民には伝統的な暮らしがあります。なのに、普通はそこまで周囲に知られていないのです。」

ルーツが証明できない…

「先住民であると特定できない状況も多くの人々に起こっています。先住民の言語もできない、先住民の文化的活動にも参加ができない、先住民のルーツがあるけどもそれを証明する実態がないので、特定できない状況も起こっています。本人にとって、この状況は不名誉なことです。つまり、自分のことを知らない人が多いのです。そういう人々の安全な場所を確保し、本来の文化とつながる。その活動を行っています。」

「肌の色は世代を経て、薄くなり、ポルトガル系やイタリア系の肌の色？と言われてしまうことも起こっています。つまり、アイデンティティの危機です。失われた言語があり、失われた物語もあります。植民地政策における白人への同化政策で、本来の文化からの隔離政策が行われてきたのです。オーストラリアの先住民は世界で最も古い歴史を持つともいわれています。人類の生きた歴史そのものなのです。つまり、どこの国でも先住民から学ぶことがあります。調べて、学べば学ぶほど宝があります。文化を理解することが非常に重要なのです。こんな言葉があります。耳が二つで口は一つという意味は、話すよりたくさん聞くことが大事！つまり、耳を傾けなければいけません。」

→ここは神話が残る先住民にとっての聖地です。その横までビル群が…

たくさん耳を傾けよう

「２つのシステムがあります。児童保護のマニュアルがあって、児童保護法に基づ

→フィールドワークのラストは先住民に関する文化センターに立ち寄りました。

く危害等を児童が加えられた時の対応が決められています。しかし、そこには特別な制度もあります。先住民の文化ではこういったことへの支援も親族、家族の下でするのです。先住民の場合はその方針に沿うと決まっています。非先住民族への説明もできるようになっているのです。こうして、自分たちの法律を作って対抗しています。」

「例えば、出産後に家族から引き離された子が 6 人いました。しかし、赤ちゃんは元の家族、親族に戻されました。そのぐらい先住民自身の文化と、その機能に自信を持っています。母は、暴力、ドラッグの課題を抱えていました。母自身もトラウマがあり、養育が無理と言われることもありました。しかし、先住民の文化に基づいた支援プランを立て、弁護士も立てて裁判も行うこともありました。先住民の暮らしに基づいた養育を行う家族に理解を示し、力を与えるのが私たちの役割です。」

「先住民には生まれながらに自分のトーテムがあります（日本でいうと干支のような)。そのトーテムごとに食べてはいけない食材が決められています。これは種を絶滅から救い、食べつくさないためにもなり自然環境保護にもつながります。こうした文化もあるのです。」

家族が違う

「つまり、家族が違うのです。里親手当は日本より少し多いぐらいでしょうか。日本では一人月約 15 万円。イギリスは年約 240 万円。月約 20 万円。オーストラリアのクィーンズランド州では里親開始手当として約 12200 円、引き受け手当として一人につき約 61100 円。2 週間ごとに約 5600 円支給。高度な支援を求められるハイニーズケースには手当として 2 週間ごとに約 20000 円追加されます。なおかつ税の免除も受けられます。年間約 600 万円で、医療的ケア児ならさらに…となっている状況です。」

「里親には 24 時間相談テレホンも解説しています。心理相談も利用できます。大事なのは人間関係だと思っています。仕事の役割ではなく、人として接する必要があることは間違いありません。」